

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	休憩室、事務室等に掲示し、常に見て共有できる様にしています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や清掃活動を通して、馴染みの関係になり、挨拶やお話をさせていただいています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事へ参加することでグループホームや認知症の方との接し方など、地域の方も徐々に理解していただいています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議を催して定着することで、情報の交換が沢山できています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「地域密着型連絡協議会」を通し、各事業所との交流を重ね、行政担当者からも適切なアドバイスなど伺っています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を作り、職員間での学習に取り組んでいます		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使い等に特に注意をし、職員一人ひとりが意識を持って介護を心掛けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要とされる入居者がいない為、活用させていません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を噛み砕いて説明し、誤解や行き違いが無いようにしている。また、重要な事項は文章で渡すなど双方が配慮し気をつけています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書には、内部・外部への相談窓口を記載していると共に、家族会や催事の際には、なるべく家族と話をし、意見を吸い上げ可能なことは運営に反映させていただいています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を大切にし、定期的に面談を行っています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な研修については会社負担での講習や各種資格を設けると共に、休日日数(年間120日)やシフトの融通性をもって就業環境の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する外部研修は評価性として伝達講習を義務付け、知識や情報の共有をしています OJTでは職員同士でより良い方法を考え合うことで質の向上に努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所主催の交流会に参加し情報交換やケアについての相談などを気軽に話し合える状況であり、施設単独ではなく、地域全でサービスの向上に努めます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情・行動・会話等でその方との接し方を工夫し、信頼関係を築いています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できる限り家族の話に傾聴し、その話の中で情報を集めている。又、出来る事と出来ない事があることをしっかり伝え、可能な範囲で意向に沿えるよう努力しています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の状態の観察といろいろな話をする中で本当に必要なサービスを見極めている。また必要であれば可能な範囲で他のサービス利用もその都度検討しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気大切に、ご本人の希望や気持ちを尊重し、職員からの声かけにも聞いていただける関係作りを大切にしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が施設にしてほしいこと、と、家族が入居者にすること、という書式を記入して頂き、家族と共に介護を行っていくという体制を作り、その都度皆で話し合い一番良い方法を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の人やお友達の訪問をなるべく受入れ、馴染みの関係を保つと共に、希望があれば外出計画を立てる等、ご家族を交えて協力していただいています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その場その場の雰囲気を大切に、対応しています、またアドバイスなどもさせていただいています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙を差し上げています 近況の様子を伺いながら、ご家族の介護上の悩みを聞き、精神的に和らげるよう努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接聞いたり、普段の会話での言葉や内容、又は様子等で把握しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査で把握すると共に、本人や家族との会話により、情報を得よう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつも通り生活しているか、又1日2回のバイタルチェックにより、体調を観ています 動きや表情観察に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	時々の問題点はなるべくその場でミーティングを行っています、また計画には本人の意向を取り入れるようにして、家族には面会時に聞くようにしています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノート、または朝のミーティング時等で情報を共有しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な際には行政や地域包括支援センターに相談し可能な範囲で施設外のサービスも取り入れながら支援を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の集まり(敬老会)に参加、お話ボランティアの方に訪問していただき、交流を図っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の歯科往診、月2回のホームドクターの往診にて、体調の変化に対応しています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りで気付いた変化を担当の医師や看護師に相談し、適切な処置を受けられるように努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を通して情報交換、退院後の環境づくり等、カンファを行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の意向を伺っています 入居者個人個人の状態でバイタルチェック、水分、排泄状況等よりチェック出来るようミーティングを行っています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災対策に対するマニュアルに沿って行っています 応急処置シミュレーションを行うことで、職員間同士で統一を図るようにしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力の下、訓練を行っていますまた災害避難場所をスタッフ全員が知っており、ルートもわかっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時々心配のあまり、そぐわない言葉が出てしまうこともあるので、皆に注意をしてゆきたいと思っています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの得意、不得意を把握するよう努めています その時々本人に聞き、断れる雰囲気を作れるようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして見守りしているが、集団生活なので職員側のペースになってしまうこともある。それを少しでもなくすよう努力しようと思います		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服選び、使い慣れた化粧品の購入など、希望に対応出来るよう、職員が同行して買い物や外出をしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を書いていただき、居間へかけて食事のイメージを持っていただいたり、野菜の皮むき、野菜切りなど、簡単な下ごしらえなどにも参加していただいています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常生活記録にて食事摂取のチェック・水分量の記録を行い、変化や異変にいち早く対応できるようにしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助しながら、ご自身で口腔ケアを行っていただいた後、職員が確認し磨き残し等無いようにチェックを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく布の下着を使用していただき、排泄チェックにより、排泄パターンを把握し、声掛けしています リハパン利用者には声掛けし誘導しています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しやすい人には水分を多く摂ってもらうため、水分チェックや飲みやすいように、好みの味にしています それぞれの方に合わせ、食べやすいようにしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴嫌いの方には、その時々いろいろな声かけをしています、入るか入らないかは本人に任せています 曜日は個人に任せるのは難しいものがあるが、少しでも個人の意見に沿える様にしたいです		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠のタイミングは個人差があります その方に合った入眠が出来る様心掛けています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームドクターの指示による処方箋にて、間違いのないよう服薬しています 変化が見られた際はホームドクターへ相談しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクを通して、カラオケ、手芸を楽しんでいただいています 気分転換を兼ねて、外食、ドライブを楽しまれています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	郵便局・銀行・買い物等なるべくご本人様の希望に応じられるように支援しています。また外泊等もご家族様の協力の基実施されています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了承の基、本人が現金の管理出来る方はお任せして見守り、その他の方は必要に応じて使えるよう、支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人・家族への連絡は取り次いで安心していただき、手紙の投函は一緒に郵便局へ行く等の支援をしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清掃は毎日行い、清潔・安全を心がけています 居間には生花を飾ったり、季節感を取り入れています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に椅子・テーブルを置いて、談話コーナーにて過ごされています 時には個人の居室で過ごされています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物・使い慣れた物を持ち込むことで精神的な安心を得られるようにすると共に、要望があれば安全に暮らせるように、その都度話し合いを行ってよい方法を考えられています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印や案内板を設け、自立を促すと共に、バリアフリー、IHヒーター、見守り等により、安全確保しています		